

第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	ウォーター・インダストリー・トレーニング in APU
主催者	環境省・立命館アジア太平洋大学
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input checked="" type="checkbox"/> 5日
開催時間	12/5 9:30~18:30、12/6 9:00~18:30、12/7 10:00~17:00 (12/7のみ非公開)
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	12/5、6 :立命館アジア太平洋大学+実地見学、 12/7: 実地見学
参加人数	名

開催概要 (900字以内)

環境省と立命館アジア太平洋大学は、2007年12月5日(水)~7日(金)の3日間、「ウォーター・インダストリー・トレーニング in APU」を開催した。対象(トレーニー)は、WEPA(アジア水環境パートナーシップ: アジア11カ国の環境省関係者)メンバー14名を中心とし、講師(トレーナー)は、東京大学、立命館アジア太平洋大学(以下 APU)の教員3名のほか、豪州のワイドベイ・ウォーター・コーポレーション(水道管理会社、以下 WBW)の実務者3名であった。本トレーニングの趣旨は、総合的な水需給マネジメントおよび汚水マネジメントについて講義・実地見学を通じてトレーニーの理解を深めることであった。

12月5日(水)の午前および6日(木)終日は APU にてトレーニングが行われた。冒頭に趣旨説明が行われた後、東京大学福士謙介准教授によって「水環境のリスクアセスメント」、同大学片山浩之准教授によって「伝染病と水管理」の講義が行われた。翌6日には、WBWのCEOである Tim Waldron 氏による「配水・減水の管理と水圧制御」、Graeme Thompson 氏による「効果的な水資源管理システム」、Jo Collins 氏による「水関連産業の経営構造・財務管理におけるイノベーション」、そして、APUの Francisco Fellizar 教授による「河川流域における水保全の促進」の講義が行われた。5日(水)の午後は、実地見学として、別府市朝見浄水場および豊後大野市朝地町土地改良区を訪れ、前者では日本の浄水場のしくみ、後者では土地改良区の役割と実際の農業水路のありようを学んだ。

12月7日(金)は終日、大分県日田市エリアを中心とした環境省企画の実地見学(非公開)が行われた。

トレーニーは、日本および豪州の水分野の専門家による講義に大いに関心を示し、質問が尽きなかった。また人的ネットワークの構築、連携強化の点でも有意義であった。



第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

特になし。

その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

本学のイベントが「アジア・太平洋水サミットのオープンイベントである」ということで、実地見学先が趣旨を即座に理解してくれ手配を進めやすかった。

本学は環境分野を研究主要分野の1つと位置づけており同分野の教員も国内外から豊富に揃えているため、今後ともこうした水関連のセミナー・イベント開催には積極的に取り組んでいきたい。

